

平成30年度 静岡県立富士見学園指定管理者評価委員会 議事録

1 開催日時 平成30年7月18日（水）14時55分～16時45分

2 会 場 静岡県立富士見学園

3 出席者

<委員>

◎委員長

氏 名	職 名
◎大石 明利	東海大学短期大学部児童教育学科教授
天良 昭彦	静岡県知的障害者福祉協会副会長
鳥居 巖	元静岡県手をつなぐ育成会副会長
米山 忠幸	富士市障害福祉課管理担当統括主幹

<指定管理者>

(福)あしたか太陽の丘 理事長、事務局長、総務事務担当者
富士見学園 園長、園長代理、施設管理担当者

<事務局>

障害者支援局 田光局長

障害者政策課 村松課長、武田班長、安部主査

4 議事概要【詳細については別紙参照】

(1) 評価委員会の趣旨等の説明

- ・ 評価委員会設置の経緯、目的、評価対象について説明を行った。

(2) 一次評価等の説明

- ・ 指定管理者による一次評価と県による評価についての説明を行った。
- ・ 委員から質問・意見があった。【別紙】

(3) 施設調査

- ・ 施設の改善箇所、老朽化の進んでいる箇所を中心に約30分実施した。

(4) 二次評価

- ・ 評価項目ごとに委員から意見をいただいた。【別紙】

【別紙】

◆◆一次評価に対する評価委員からの質問・意見◆◆

- 委員：3（1）「事故防止に向けた体制や事故発生時の対応は利用者の安心安全を確保できるものか」に関して、利用者の日々の記録をソフトウェアで管理しているとのことであったが、これは市販のソフトウェアなのか、あるいは、独自に開発したソフトウェアなのか。
- 管理者：汎用ソフトウェアをカスタマイズしたもので、イントラネットで法人本部とつながっている。アクセスには一定以上の管理者権限が必要となっており、情報共有と同時に、情報管理へも配慮している。
- 委員：3（1）「事故防止に向けた体制や事故発生時の対応は利用者の安心安全を確保できるものか」の法人の自己評価が4から3に下がった理由は、以前に比べて問題行動の発生件数が増えたからなのか、個室化・ユニット化等の改善策を実現できていないからなのか。
- 管理者：支援が困難な利用者が増加し、施設・設備が利用者の状況に適したものでなくなっているため評価が下がっている。
- 委員：説明のあったことに関しては、平成28年度から平成29年度にかけて特別状況が変わったという印象はもっていないが、具体的に何か変わった点があるのか。
- 管理者：例えば、障害支援区分6の利用者の数は、平成28年4月1日時点で6人だったが、平成29年4月1日時点では12人に増えている。生活介護利用者の平均障害支援区分も4.8から5.0へと上昇している。
- 管理者：昨年度の評価が適当でなかった部分もあるのではないかと考えている。利用者の安心安全の確保もさることながら、職員の安心安全も確保されるべきであり、その点が十分でなかった点も考慮して評価を3に改めた。
- 委員：利用者や家族にとっては、この点が改善されないと利用しづらい施設なのではないかと感じる。
- 管理者：富士見学園は、強度行動障害のある人を受け入れるような構造の施設ではないため、利用者の多くが行動障害を抱えている今の状況は、大変厳しいものがある。ただ、現実の入所ニーズを見過ごすことはできず、葛藤の中で施設運営を行っているというのが現状である。
- 委員：指定管理者が限られたハードの中で支援を行わなければならないという苦労は十分に理解しているが、この点がなかなか改善されないという歯がゆさもあり問題提起させてもらった。改善に向けた検討会も行われていると聞いており、期待している。
- 管理者：それぞれの障害特性にあったサービスを、しかるべき施設で提供することで親御さんに安心していただけるものと考えており、指定管理者としても、県に対して提案し、協議を進めていかなければいけないと考えている。
- 委員：平均障害支援区分が平成28年度から平成29年度にかけて上がっているのは、入所者の入れ替えに伴うものか。

- 管理者：それに加えて、もうひとつの要因があるのではないのかと思っている。富士見学園は、特別支援学校高等部卒業生が入所するケースが多く、その場合、入所時の障害支援区分の認定は保護者への調査により行われるため、障害支援区分が低めに出る傾向がある。そういった利用者の支援区分が、適切な値に更新されることで、平均障害支援区分が実態に近づいているという側面もある。
- 委員：2年前も同様の指摘をさせてもらった。適正な支援区分が付与されることで、報酬が適切に支払われ、施設経営上プラスに作用するという点は認識しておいたほうが良い。年間10件もの労災が発生しているということは他施設では考えられない状況であり、35人中32人が行動障害を抱えているということも併せると、富士見学園の職員は非常に困難な現場でよく頑張っている。
- 委員：富士見学園の抱える困難さやそれへの対応については、あり方検討会で腰をすえて検討していく課題だと思っている。また、強度行動障害に係る問題は、社会・地域の問題なので、富士見学園だけではなく、県あるいは地域としてどうしていくのかという観点から検討することが必要だ。
- 委員：2（5）「利用者のニーズ把握は適切かつ十分か」に関して、傾聴ボランティアから、新規採用の若い職員が配置され施設全体が明るく元気な雰囲気になったとの意見があったようだ。これまで富士見学園には中堅以上の職員が配置されるケースが多かったと思うが、今回、新規採用職員を配置するようにした効果、考え方等教えてもらいたい。
- 管理者：これまで、30歳以上のベテラン職員を配置してきたが、平成29年度には新規採用職員を配置した。この結果、30歳代の職員が教える立場に変わり、組織が活性化した。
- 委員：2（4）「職員の研修は利用者処遇向上が期待できるものであるか。また、十分行われているか」に関して、外部研修に多くの職員が参加しており、スキルアップに取り組んでいることが良く分かった。
- 委員：2（6）「生活介護及び自立訓練の利用者の地域移行をめざすための効果的な支援がなされているか」について、これだけ行動障害を持っている利用者が多いにも関わらず、毎年地域移行を実現しているという点は高く評価できる。
- 委員：時間をかけて形成されてきた行動障害を、3～5年で解消する困難さを考えると、支援には相当な苦労があるのではないか。
- 委員：家庭の養育力が弱い利用者も少なくない状況の中で、富士見学園の運営には相当厳しいものがあるのだと思う。
- 委員：2（11）「施設利用率向上に向けた取組がなされているか」について、法人は自己評価を下げているが、困難な状況の中、指定管理者として懸命に取り組んでいることを考えれば、県の評価（○：実施できている）が妥当なのではないか。
- 委員：3（1）「事故防止に向けた体制や事故発生時の対応は利用者の安心安全を確保できるものか」について、問題行動が多発していることに対して、研修をしっかりと行うなど、ソフト面での対応は十分に行われている一方で、ハード面の整備が喫緊の課題になっている。施設の老朽化も進んでおり、生活の質という点でも懸念がある。

ソフト面の頑張りや、ハード面の整備がアンバランスになっているという印象であり、どのようにこれを解消していくかが課題だと思う。

委員：1,144件の問題行動の月別の発生状況に特徴はあるか。

管理者：利用者の入れ替わりがある4月から6月にかけて、生活環境が変わることから件数が多い。7月になると落ち着きはじめる。

委員：富士見学園に限らず、夜間になにかあった時の対応というのは、非常に難しい課題だと思っている。3(2)「災害時の体制は利用者の安心安全を確保できるものか」について、夜間訓練は何回行っているか。

管理者：実際に夜勤職員だけで行う訓練を、年2回(7月と10月)行っている。

委員：地域の消防団との連携はあるか。

管理者：ない。

委員：他の施設では、地域の消防団との合同訓練という名目で、夜間訓練、昼間訓練を各1回行っている。そのことで、消防団に、どういう人たちがどういう施設に入所しているかということを知ってもらえるので、有事の際には心強い。

委員：富士市大淵地区は福祉施設が多いので、地域に呼びかければ連携できる余地があるのではないかと。

委員：4(2)「補修・修繕の必要性が発生した都度、適切に対応しているか」について、法人の自己評価が5から3に下がっているが。

委員：30万円以下は法人が負担するという決まりがあるのか。

事務局：指定管理を開始する際に取り交わす協定で定めている。

事務局：県で対応するという事になると、予算化から施工まで、時間を要してしまうというのが現状。

委員：あらかじめ予算化しておくことはできないのか。

事務局：県全体の管財費という形で予算化はしてあるが、これは共有の予算なので、執行に際しては別途協議が必要になる。

管理者：県の方でできなくて指定管理者が行うようにしてきた結果、9年間で1億6千万円の累積赤字が出ており、あしたか太陽の丘の負担だけで行うのは大変な状況。

委員：修繕は生活に直結しており、即応性が必要。1件30万円に達しない場合でも、数が多ければそれなりの負担になり、安定経営に影響を与えるということを、県は認識しなければならない。

委員：1(6)「安定的な運営を確保するために十分な経営基盤があるか」について、法人として十分な経営基盤が確保されているといいながらも施設単体では赤字が出ている。赤字の施設を民間の法人に運営させるというのは適当ではないと考える。

委員：短期入所は空床型だけか。

管理者：空床型だけである。

委員：短期入所のニーズはあるか。

管理者：空床型というのが知られているので問い合わせは、ほとんどない無いです。

◆◆評価委員会による二次評価◆◆

委員：この9年間、障害者福祉を取り巻く状況が大きく変わってきた中で、富士見学園の職員は懸命に取り組んできていることは高く評価され、県の評価（すべての項目で○：実施できている）は妥当だと考える。

委員：利用者の重度化が進んでいるにも関わらず、年度評価は右肩上がりで改善しており、富士見学園が県と協力しながら真摯に業務の改善に取り組んできたことがよく分かる。県の評価（すべての項目で○：実施できている）は妥当だと考える。

委員：補修・修繕に関して、県と法人との評価に差が見られ、この点に課題があるものと考ええる。

委員：時代の変化に合わせ施設の役割が変わってきたことに、法人として対応してきたことは高く評価できる。